

環境未来都市提案書概要(様式2)

目指すべき将来像【1.(1)】:2050年の姿  
 ・パラダイムシフト後のライフスタイルが定着している。 / ・エネルギー分野における補完性の原理の定着している。  
 ・新たな地縁・テーマ複合型のコミュニティが確立している。 / ・「走る蓄電池」「走る情報端末」としての次世代自動車が普及している。 / ・生活の質の高い高齢者が活躍している。  
 ・産業振興・雇用創出が持続している。 / ・国内外の都市への横展開・貢献がなされている。

①  
 課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類>環境  
 <課題・目標>エネルギーの地産地消モデルの構築  
 <取組方針>  
 ●全量買取制度の廃止や大規模災害に備え、需要家(企業・市民)のモチベーションを下げることなく再生可能エネルギーの大量導入を推進するために、被災地への技術供与も視野に入れながら、供給側(エネルギー事業者)の対応状況を見極めつつ、需要家にメリットのある形でエネルギーの地産地消に取り組んでいく。  
 ●特に、人と新しい技術との親和性を確保し、高齢者をはじめ老若男女が安全、快適に利用できる技術、システム等の開発及び普及を推進していく。

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

- a.家庭内のエネルギー利用の最適化に資する技術開発・実証  
(創エネ・省エネ機器と蓄電池付きHEMSの連携及びV2Hシステムの研究開発と実証検証)
- b.商業施設でのエネルギー利用の最適化に資する技術開発・実証  
(蓄電池付き商用施設向け蓄電・蓄熱EMSの連携システムの技術開発)
- c.コミュニティでのエネルギー利用エネルギーに資する技術開発・実証  
(情報マネジメントシステム(EDMS)の研究開発及び実証検証)
- d.スマートハウスの導入支援
- e.公共施設への創エネ・蓄エネ・省エネ機器の導入
- f.サステナブルプラントの整備促進
- g.地域資源(太陽光・小水力等)を活用したインフラ整備
- h.コミュニティにおけるエネルギーの面的供給
- i.車載蓄電池の非常用電源化

②  
 課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類>超高齢化  
 <課題・目標>誰もが安全・快適なモビリティライフの実現  
 <取組方針>  
 ●今後予想されるPHV・FCVなどの次世代自動車の導入を効果的に推進し、高齢者をはじめ、老若男女が個々のライフスタイルに合う形で「かしこく」使いこなす移動モデルを確立し、快適で安全な交通流の確保と移動における低炭素化を図っていく。

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

- a.短距離におけるパーソナルモビリティ・カーシェアリングの導入  
(ワンマイルモビリティシェアリングを通じた次世代型末端交通システムの導入)
- b.パーソナルモビリティの運用実証
- c.次世代自動車の導入支援
- d.次世代型FCバスシステムの導入及び水素ステーションの整備
- e.交通まちづくりの推進
- f.高齢者でも安全・安心なモビリティライフの実現
- g.健康収集情報・活用のための実証実験

③  
 課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類>その他(産業振興)  
 <課題・目標>モビリティとエネルギー技術を組み合わせさせた次世代産業振興  
 <取組方針>  
 ●これまでの次世代のモビリティやエネルギーの取組の「強み」を生かしながら、新たな技術開発による産業基盤の強化と雇用の創出を図り、地域経済の活性化と技術の横展開を通じて我が国の経済成長への貢献を果たしていく。  
 ●取組展開にあたっては、高齢者の持つものづくり技術を次の世代に伝承することも視野におく。

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

- a.情報通信網を活用した行動支援  
(TDMSを介した交通需給制御の最適化とEDMS連携)
- b.エネルギー情報とモビリティ情報を組み合わせた行動支援
- c.普及型EDMS連動スマート充電システムの導入
- d.新産業の誘致
- e.環境ビジネス研究会の推進
- f.低炭素社会モデル地区における次世代技術の実証、見える化

<①、②>再生可能エネルギーを活用した充電インフラ整備と次世代自動車の導入支援を一体的に行うことにより、移動時のゼロエミッションが達成できる。  
 <①、②、③> エネルギー分野とモビリティ分野を融合した次世代技術開発を通じて、新たな産業・雇用を創出することができる